



ま ちかど インタビュー

農業再開4年目の秋に想うことは 攻めの農業と農業再建の重責を担う！

原発事故の影響により、震災後は米の作付けを2年間自粛していましたが、平成25年から作付けを再開し、今年で事故後4年目の収穫となりました。

今回、農業再開からの感想や想いをお伺いしました。



矢内 光正さん
(折 木)

原発事故から放射線物質による農地、農産物等の汚染、さらに風評被害と、厳しい状況下の4年目、収穫の秋を迎えました。

農業の復興、再生に向け農産物関連情報の開示など様々な信頼回復に取

り組み、さらに、農業就業者の減少・高齢化により若者の就業に繋がるよう復興が急がれます。

地域において、折木地区の水がめである「西の沢ため池」除染と、ほ場整備事業より、攻めの農業に魅力を感じたいものです。



横田 和希さん
(上北迫)

東京電力福島第一原子力発電所事故より、荒廃した田畑を耕し風評被害と闘いながら4年目の収穫を迎えました。

活路を求め全国を歩き、失ってはいけないふるさと再興と経営効率の向上を目指し、鶴ヶ崎地区ほ場整備事業のリーダーを引き受けました。

自身の農業のみならず、地区内外の農業再建の重責を担う覚悟です。事故との終わりになき闘いが今も続いています。

編集後記

地球温暖化の影響なのか、今年の夏は暑い日が続きましたが、最近はやりに寒さが感じられる季節になりました。

今回の「議会だより」は、9月定例会いわゆる決算議会の内容を主として編集しました。

以前(平成20年度)、先輩委員によって、町村議会広報全国コンクールで「ひろの議会だより」が全国1位となる「最優秀賞」を受賞しました。

当広報委員会も「議会の内容を正しく」、「わかりやすく」、「そして市民のみなさんに「読んでいただける」広報誌づくりの編集に取り組み、再度、受賞される事を目標において努力して参りますので、これからも広

報誌づくりについて、みなさんご意見、ご感想をいただければ幸いです。
(北郷幹夫)



秋の花コスモス

発行・編集責任者

議長 黒田政徳

広報委員会

委員長 塩 史子

副委員長 阿部憲一

委員 北郷幹夫

委員 小磯利雄

委員 遠藤 浩

次の定例会は12月です